

8/29総合計画審議会第1回第1分科会でのご意見に関する計画素案反映の検討

挑戦	施策	意見等	第1回 意見・質問	対応区分	対応の趣旨
1-1	地域コミュニティ	意見	・（越前谷委員）コロナ禍以降、町内会活動は厳しさを増しており、解散や休会に追い込まれる団体が増えている。 - 美唄市以外の南空知地域の町内会と比較しても、美唄の状況は特に深刻である。 - このままでは、町内会が存続できなくなり、地域をまとめる組織がなくなる可能性がある。 5年、10年といった長期的な視点で考えると、住民任せにせず、行政が主導して地域を支える抜本的な仕組みを構築する必要がある。 - 将来的に町内会が衰退する事態を見据え、今から新しい計画や具体的な対策を立てていくことが重要である。	・展開方向の見直し（追加含む）	ご意見を踏まえ、施策の展開方向、①地域のつながりを大切にできる地域づくりの内容を変更しました。
1-3	高齢者福祉	意見	・（高橋委員）指標の設定を認知症カフェの参加人数にするか、また認知症の当事者ではない方を指標にしてもいいのではないか。	同上	同上
1-5	地域医療	質問	・（高橋委員）美唄市には聖華高校があり、そこで医療従事者が育っているにもかかわらず、多くの卒業生が市外に出て行ってしまうと聞きました。 - 医療人材を安定的に確保するためにも、聖華高校の生徒が卒業後も美唄で働きたいと思えるような、何かしらの『パッケージ』が必要だと感じています。 - 具体的に、市としてどのような対策を考えているか確認したい	・文言整理（施策の展開方向）	聖華高校の学生への支援については、「協働のまちづくり」において高校の魅力化として取り組んでいきます。地域医療では施策の展開方向③で市立美唄病院で働く医療従事者のキャリアアップのための取組みについて文言を追加しました。

8/29総合計画審議会第1回第1分科会でのご意見に関する計画素案反映の検討

挑戦	施策	意見等	第1回 意見・質問	対応区分	対応の趣旨
3	11 子ども・子育て支援	意見	・（越前谷委員）子どもの居場所づくりは多様な選択肢が必要だと考えています。児童館や友達の家など、様々な居場所がありますが、継続的な取り組みが少ないのが現状です。 最近では林建設さんがカレーの提供をされていますが、行政がすべてを担うのではなく、個人や団体が行うインフォーマルな活動も重要です。 登別市では、子どもから高齢者までが集まる居場所があるのを見ましたが、美唄市にもそのような場所があるといいと感じた。 こうした子ども食堂のような取り組みを活性化するために、運営費の助成や補助といった具体的な支援策がひつようではないか。不登校の子どもや発達障害の子どもなど、学校に行きづらい子どもたちにとっても、こうした居場所は非常に重要と考える。	・文言整理（施策の展開方向）	ご意見を踏まえ、施策の展開方向③に「子どもの居場所づくりの推進」を追記しました。また、子ども食堂のような取組に対する支援については、活動の動向を注視し検討していきます。
3	15 文化・芸術	意見	・（西浦委員）文化財の成果指標について、なにか目処はあるのか。峰延地区の伝承に苦慮していることを聞いた。無形文化財についても、その伝承を担うスタッフを確保できているかを成果指標の一つに加えてみてはいかがでしょうか。	・成果指標の見直し(目標値)	市としては峰延の傘踊りや獅子舞の無形文化財を保護していく思いがあるものの、市だけの思いで指標を増やせないと考えます。それぞれの団体の意向も確認できていないことから、指標の見直しは行いません。※目標値は現状維持として修正
5	26 協働のまちづくり	意見	・（福田委員）尚栄高校について生徒が減少し、高校が存続できなくなるのではないかと市民は心配している。従来型の取組では厳しい。楽しい学校づくりに本格的に取り組んでいく必要があるのではないか。	・成果指標の見直し	ご意見を踏まえ、成果指標の「市内高校の入学数」を、「まちづくりに参加している市内高校の生徒の数」としました。 これは、市内高校に通う生徒が地域活動に参加・経験することで、地域への愛着が育まれ、将来の地域の担い手として期待できるからです。その結果、高校の魅力が向上し、生徒数の確保にもつながると考えます。

9/11総合計画審議会第2回第1分科会でのご意見に関する計画素案反映の検討

挑戦	施策	意見等	第2回 意見・質問	対応区分	対応の趣旨
1-1	地域コミュニティ	意見	・（越前谷委員）今後の町内会や老人クラブのような地域の組織は、高齢化と若者の意識の変化により、自然と解散や縮小が進んでいくことが予想されます。特に若い世代は、そうした組織に所属して活動することに価値を見出していない傾向が見られます。これからは、従来のような形式にとらわれず、もっとゆるやかなネットワークのようなつながりが求められるかもしれません。たとえば、街灯の管理やゴミステーションの維持、見守り活動といった、特定の課題を解決するために人々がゆるくつながるような形に変わっていくのではないのでしょうか。その際、誰が調整役を担うのか。行政なのか、社会福祉協議会なのか、あるいは地域に住むリーダー的な人物なのか。そのあり方について検討していく必要があるのではないのでしょうか。	・修正なし	委員からの意見内容を包含した内容であると判断し、修正は行いません。
1-3	高齢者福祉	意見	・（高橋委員）この指標だと身内だけでやっていることになってしまうので、もっとポスターを貼ったりして「コーヒーを飲みに来てください」ってPRしたほうがいいのかと感じました。今年はこれでやってみて、今後は当事者以外の方にも来てもらえるようなイベントにしていけたらいいのではないのでしょうか。	・成果指標の見直し	・認知症施策については、上位計画は総合計画で、その下の個別計画として、美唄市認知症施策推進計画（高齢者保健福祉計画において内包）を策定しております。 ・その中で認知症サポーター養成講座の養成者数を令和6年度から8年度まで80人ずつ養成する、認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク事業の搜索協力者の登録数を令和8年度に70人にすると指標を設定しているところです。 ・今回、総合計画では、認知症カフェ参加者のうち、認知症の人と家族の人数という設定しました。他市の状況を見ると、賑やかな集まり過ぎて、認知症の人と家族が参加や相談がしづらいとの意見もあり、認知症の人と家族が参加、相談できる環境が最重要と考え、このような指標にいたしました。 ・認知症カフェの、さらなるPRは必要と思いますので、様々な機会にPRに努めます。 ・また目標値は少し、ストレッチ目標として600人に修正します。
1-5	地域医療	意見	・（高橋委員）これまでの議論を踏まえ、提示されたパッケージを単なる文言としてではなく、具体的な成果指標として捉えるべきだと考えます。 さらに一步踏み込み、美唄の生徒が地元の聖華高校で学び、卒業後に美唄市内で就職するような地域に根差した人材育成モデルを「スーパーパッケージ」として構築・強化することを提案します。 医師・看護師不足は重要な課題であり、こうした指標設定と具体的な施策を通じて、抜本的な解決に繋がる取り組みを進めていただきたい。	・成果指標の見直し	看護師のキャリアアップ支援が定着に貢献しているかを評価する指標を追加しました。

9/11総合計画審議会第2回第1分科会でのご意見に関する計画素案反映の検討

挑戦	施策	意見等	第2回 意見・質問	対応区分	対応の趣旨
3	11 子ども・子育て支援	意見	・（越前谷委員）美唄市内には不登校や発達障害などの理由で学校に馴染めない子どもたちがおり、保健センターや通信制高校に相談するケースがある。しかし、これらの相談は「点」でのやりとりに留まっており、学校や保健センター、地域、市内での連携が不足している。 具体的な解決策はまだ見出せないが、不登校の子どもたちを地域全体で受け入れ、横のつながりを生み出すための仕組みや、連携を強化する議論の場が必要だと考える。 行政に対し、この課題をより深く検討し、具体的な解決策を導き出すための機会を設けることを求める。	・修正なし	いじめや不登校等については、未然防止と迅速・適正な解決に向け、各学校において組織的、継続的な生徒指導に取り組むとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる積極的な教育相談のほか、特別支援教育支援員、校内教育支援員の配置、子どもの「心の居場所」を確保するために教育支援センター（旧適応指導教室）の活用を図っているところであり、今後も関係機関と連携しながら適切な対応に努めます。
3	15 文化・芸術	意見	・（西浦分科会長）市として市の指定文化財を指定してしまえば、その数が減ることはほとんどない。そうすると、指標を設定しても、それを達成するための「努力」が見えにくくなり、指標を設ける意味が薄れるのではないか。 住民から「アリバイ的な仕事」と見なされるリスクを懸念している。 もし指標を3つ設ける決まりがないのであれば、この領域については、上2つの指標のみでも良いのではないか。 →事務局において計画の構成として文化財に関する指標は必要である旨説明	・成果指標の見直し	委員のご意見を踏まえ、成果指標を「指定文化財の認知度」にして、市民の認知度を高めることで保存や継承の機運を高めていくという流れとしました。
5	26 協働のまちづくり	意見	尚栄高校の存続指標について、高校生を増やすという目標と「協働まちづくり」の категорияは一致しないと感じる。 今後は、美唄市に定着してくれる若い世代を増やすことを目的とした、独立した施策を設けるべきではないか。 これまでの「子育て支援」に加えて、次の段階としてUターンしてくれる若い人を増やすことに焦点を当てる必要がある。この点について、今後の計画で検討してほしい。	・修正なし	市内高校の入学者数を増やすことを目的とすることではなく、まちづくりに参加する市内高校の高校生を増やすやめの手段として、入学者数を確保するという整理としました。 若者の定着に関する施策については次期総合計画で検討してまいります。